

新人指導員となって

食品衛生指導員 稲田 幹夫（いわき市）

実は昨年、文化センターで行われた同大会に福島県旅館ホテル生活衛生同業組合からの推薦を受け受賞者として出席していました。

当時は客席で諸先輩方の話を拝聴していた訳ですが、まさか翌年同じ席で私が発表するようになるとは夢にも思っていませんでした。

そしてその時の発表で耳に残っていたのは

「同業者が指導員として巡回指導に入る難しさと、その中でいかにスムーズに理解を得るか」と言うものでした。

今までは指導を受ける側だった自分としては「なるほど…指導する側も色々大変なんだあ…」と、当時の事をいろいろ思い浮かべながらその発表を聞いていました。

それは同業者、それも同じ組合員が指導員として施設の中を見て回る事へのわずかな反感、同業者故に些細な事まで仕事の内情が判ってしまうのでは？という事への嫌悪感でした。

今となっては、ひょっとすると当時の指導員の方にはそう言う気持ちが伝わっていたかも知れないなあ…と思い、ちょっと申し訳ない気持ちになったりします。

調理師免許を取得後、薦められていた指導員資格を取る事を長い間拒み続けていたのは、その裏に指導される側としてのそのような思いが有ったからでした。

しかし、旅館組合長と言う立場と、微力ですが食品衛生協会の仕事に携わるようになり、地域内での指導員数の少なさなどもわかり、今回指導員養成講習会を受けることにしました。

実際講習を受け指導員となると確かにそれまで以上に食の安全への意識向上と言うか安全確保への気持ちの持ち方も変わってきたのも事実で、自分の所はもちろん、加入組合員の中から事故は出さないようにしなければ…と考えるようにもなりました。

指導員資格取得の講習を受けた後、ややもすると日常的に繰り返される同じ作業の中でついついながしろにされがちな安全対策の再認識や食の安全に対する意識の向上を少しでも地域の同業者へ伝えられたら…と思いながら、これからは定期的に行うようになる巡回指導、その時には指導を受けていた時に自分が抱いていた数々の思いをできるだけ相手に感じさせる事の無いように努めながら頑張っけてゆきたいと思っています。